

令和4年度 第2回多文化共生施策懇話会 議事要旨

日時	令和5年3月17日(金) 18:30~20:00
場所	豊明市共生交流プラザ 北館3階 活動室1(北)
出席者	委員：高橋(会長)、阿曾、糸魚川、長山、柳川、森、ホアン 事務局：松本課長、竹田係長、吉田、土谷
傍聴者	1名

1. 外国人SOSカードの作成について(資料A)

事務局が作成した案を提示した。前回懇話会でいただいた意見をもとに、カードの案1~3を作成。意見をいただきたい。

(委員意見)

- ◆ 案3が見やすい。表面の絵と表裏ともに小さい文字はいらないと思う。
 - ◆ 案3に「市役所からのお知らせ二次元コード」(以下二次元コード)がついていると良い。110番、119番の番号のみにし、説明を省き、「電話をかけてください」と入れておくと良いと思う。
 - ◆ 案1の表面で電話番号に電話をかけることは分かる。裏面には案3の番号や二次元コードがあると良い。
 - ◆ 表面の時間は8時30分から17時15分までとなっているがこの時間しか使えないという認識で良いか。
- その認識で良い。
- ◆ 電話番号を全て表面に集約し、表面に各番号等の説明があると良い。詳しく書きすぎると分からない。電話番号とイラストだけの方が分かりやすい。
 - ◆ 110番や119番にイラストがあると良い。
 - ◆ 字はなるべく少ない方が良い。案1と案3を組み合わせ、電話番号、イラスト、二次元コードにすると分かりやすい。
- ◆ 市役所への用事は各国によって違うと思われる。SOSカードに用事の例(保育園など)を記載しようと考えているが意見をいただきたい。
- ◆ 市役所への用事として、保育園の入園などの時に、必要な書類などが分からないため、問い合わせをすることがある。
 - ◆ 用事の例を記載することの是非は何とも言えない。ベトナムやフィリピンの役所と

日本の役所で用事や連絡方法で異なるようなものはあるか。

- ◆ ベトナムは日本と一緒に。大切な用事などは市役所から個人へ連絡がくることもある。
 - ◆ フィリピンも日本と一緒に。用事については自分たちでネットから情報収集をするか、電話で直接聞いて確認する。
 - ◆ 生活便利帳は現在渡しているか。また市役所内で何ができるかは生活便利帳を渡したときに分かるか。
→ 渡している。但し、渡してわかるのではなく、読んでいただければ分かるようになっている。
 - ◆ 生活便利帳は区長からの配布や、回覧板での周知をしたりしているか。
 - ◆ 団地では回覧をしていない。掲示板に掲示したりはしている。欲しい人がいれば配布することがあるが、欲しがる人は少ない。生活便利帳の周知は少ないかもしれない。
 - ◆ 単語やイラストだけでは誤解を生む可能性がある。かといって文字のみにすると読むだけで疲れてしまう。二次元コードで別途対応の方が分かりやすい。シンプルに作られている方がよい。
 - ◆ SOS カードを作成後どのように配布する予定か。
→ 各関係窓口に配置を予定。
 - ◆ 電話で確認するよりもネットで調べることが多いかもしれない。
 - ◆ Facebook等でやさしい日本語を用い、周知する方がよいと思う。電話よりかはネットや紙媒体両方で分かるようにするとよい。カラットや文化会館でのイベント情報もFacebook等を使うと日本人への周知に繋がりよいと思う。
→ Facebookへ各国の文言に訳した文章を掲載することは効果があると考えている。更新頻度を高くすることも検討する。
- ## 2. 保育園での電話通訳サービスの利用について（資料B）
- ◇ 今年度の新規取組について報告
(委員意見)
 - ◆ 資料Aにある電話対応時間が17時15分までだが、資料Bは18時00分までになっている。市役所へ電話をかける時と時間が違うのはなぜか。市役所にかける時も18時00分までにできないか。
→ 原則は17時15分までが電話対応の時間である。保育園で利用をする時は、夕方に子どもを迎えに来た時に保育士へ相談や話をする時が想定されるため18時00分まで

としている。但し、市役所へ電話をかける時も18時00分までが良いという希望が多ければ、対応時間の変更も検討をする。

- ◆ 資料にある外国人人口増減について、0～4歳が53人プラスとなっているが、豊明市では多いのか。
- 多い方ではないかと思われる。
- ◆ 外国人同士の子どもであれば日本国籍を持たない。日本国籍を持つ子どもが増えているのか。
- そこまでは把握しきれていない。
- ◆ 電話番号の周知はしているか。
- こども保育課から話をしてもらっている。
- ◆ 小学校などへの導入は検討しているか。
- 小学校は独自で通訳を雇っているため検討していない。
- ◆ 書類の翻訳は行っているか。
- 随時各課から市民協働課へ受付を行っている。

3. 日本語ボランティアの養成と人材確保について（資料C）

◆ 事業の実績を報告。人材確保についての意見をいただきたい。

（委員意見）

- ◆ ボランティアとならなかった理由は何か。
- 私生活にかかる時間で手一杯という時間の都合や定年を迎えてから考えるという年齢による理由が主である。
- ◆ 日本語教室の位置付けも重要であると考えられる。試験対応に向けた教室なのか生活支援に向けた教室なのか。そういった位置付けとボランティアの思いがあっていないと難しいと思われる。
- ◆ TIRAの日本語教室は生活支援を主としている。マンツーマンによる手法をとっている。
- ◆ マンツーマンによる方法も良いと思う。ただ中には更に高いレベルの講義を受けた人もいる。講師一人に対し、生徒複数人でレベルごとに教室は分ける、宿題を課すなども良いと思われる。

4. その他

- ◆ SOSカード作成後何を行うのか考えておくと良い。
- ◆ これから外国人が高齢化に伴い、亡くなることも増えてくる。そういった時の案内などを考えておくと良い。

- ◆ 他^{ほか}の国^{くに}の文化^{ぶんか}を議案^{ぎあん}にあげて議論^{ぎろん}していくと良い。

次回懇話会^{じかいこんわかい}は未定。

(日程^{にってい}が近^{ちか}くなったら調整^{ちようせい})